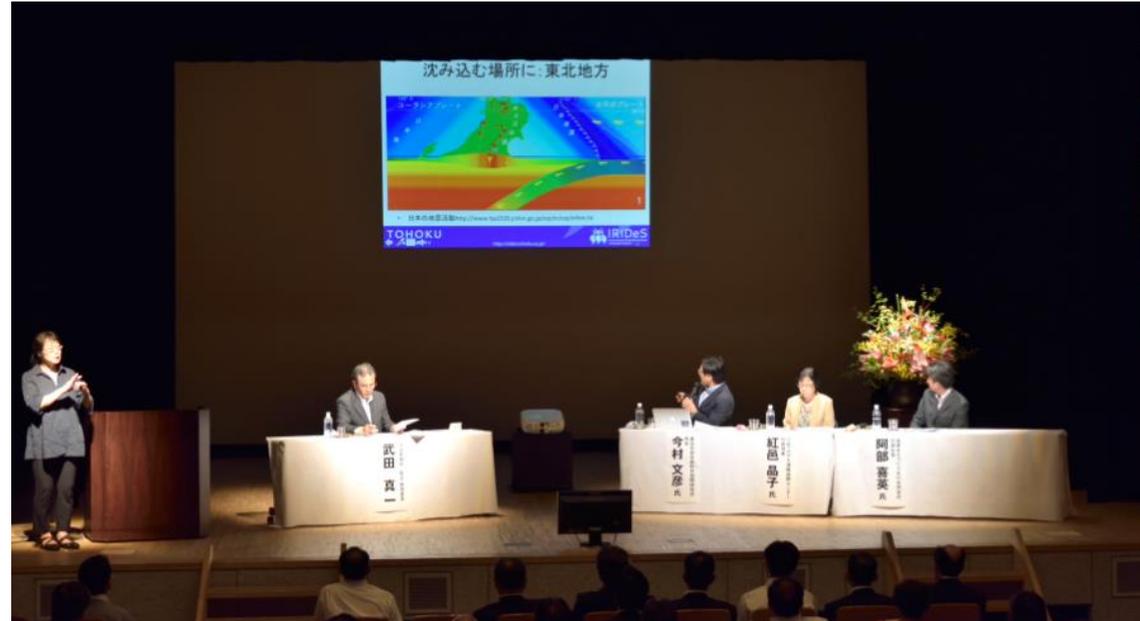




資料3

平成29年2月15日
宮城県震災復興・企画部



東北復興月間
震災から5年、復興と防災をあらためて考える

宮城県復興フォーラム

震災から5年を振り返り、みやぎの未来を語る。

参加無料
(先着順)
250名
要事前申し込み

復興庁では、平成28年6月を「東北復興月間」とし、被災地とともに様々な情報発信を行っています。宮城県では、東日本大震災からの5年を振り返り、防災・減災の取り組みや記憶の風化防止、復興への展望、新たな提案など、みやぎの未来を語るフォーラムを開催致します。

プログラム

13:00～ 主催者挨拶・来賓挨拶

13:15～ **第1部 特別対談**

「あれから5年、これからの5年」
司会 村井 嘉浩 × ゲスト ざとう宗幸氏

13:50～ **第2部 パネルディスカッション**

①「風化と再生、みやぎの未来」

■パネリスト
東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦氏
一般社団法人みやぎ復興復興財団 代表理事 紅邑 晶子氏
復興まちづくり財団 代表社員 阿部 喜英氏
■コーディネーター
河北新報社 防災・教育編集 武田 真一氏

15:15 (予定) 閉会

日時 2016年6月20日(月)
13:00～15:15 (予定)

会場 戦災復興記念館 記念ホール
(仙台市青葉区大街2-12-1)

申し込み方法
FAXまたはメールでお申し込みください。お名前(会社名・学名)のほかに、おりの住所・電話番号・お申し込みの理由をお知らせください。お申し込みは、1日限りの先着順となります。お申し込みは、お申し込みの受付期間内に行ってください。

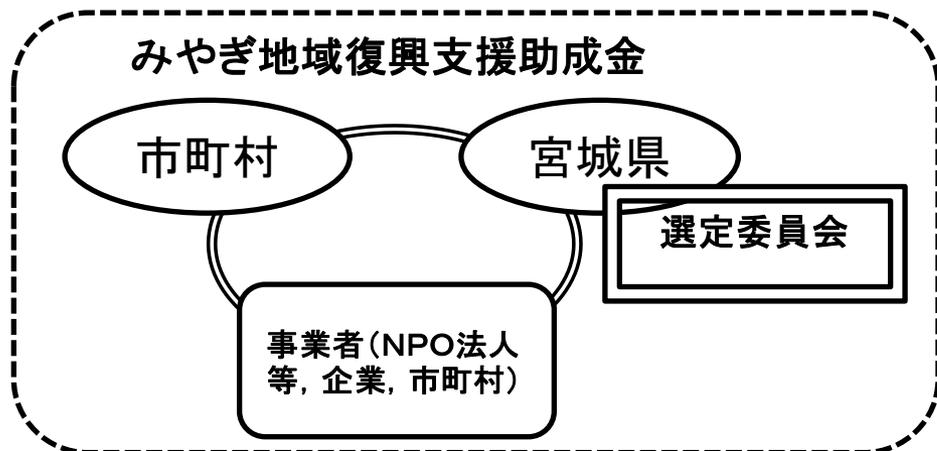
FAX 022-206-4358
メール miif@kahokusei.com

申し込み期間 6月15日(水) 15:00まで

主催:宮城県 共催:河北新報社 後援:復興庁
【お問い合わせ】宮城県震災復興・企画部震災復興推進課 ☎022-211-2443

東北復興月間イベント
2016年 6月 20日
宮城県復興フォーラム

みやぎ地域復興支援助成金のイメージ



- ◆行政支援の隙間を埋める支援
- ◆民間団体のノウハウを生かした支援

背景及び事業目的

<背景>
 震災から一定期間が経過し、被災者自らが自立した生活を取り戻す活動を行っている一方で、未だ支援団体の支援活動を必要としている被災者が多数存在する。また、資金面で厳しい運営を強いられている支援団体も多く活動の打ち切りや縮小の懸念が高まっている。

<目的>
 地域の復興を推進する事業に対し、資金の助成を行うことにより、行政の手の届かない被災者ニーズに、きめ細かく対応する。

県外避難者支援



交流促進・移住定住促進



被災地域

コミュニティ再生支援



子ども・子育て支援



震災伝承

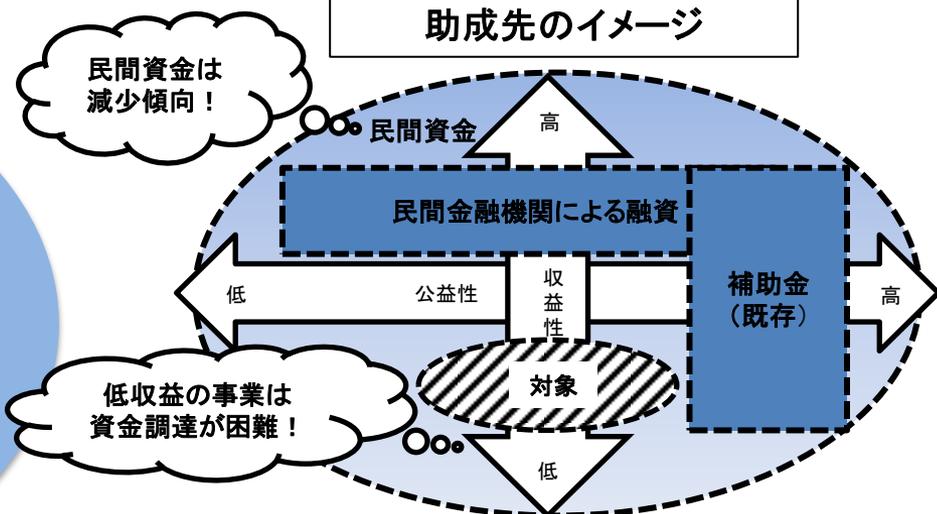


自立困難者の支援



様々なニーズにきめ細かく対応

助成先のイメージ



必要な事業を幅広く助成し、地域の復興をバックアップします！！

みやぎ地域復興支援事業の概要

被災者の支援や被災地の復興支援のために活動しているNPO等民間団体の活動継続のための資金の助成

○事業概要 事業期間:平成25年度～平成32年度, H29当初予算額 305,000千円

<p>【総合タイプ】</p> <p>①地域資源を活用しながら地域課題の解決を目指す事業 対象:NPO等, 任意団体, 独立行政法人, 企業, 市町村</p> <p>②被災者支援に特化する事業 対象:NPO等, 任意団体</p> <p>③空き家等を改修した拠点を活用して復興を推進する事業 対象:NPO等, 独立行政法人, 企業, 市町村 ・平成28年度に新設 ・復興を推進するソフト事業の実施が条件</p>	<p>①ソフト上限1,000万円 下限50万円</p> <p>②ソフト上限300万円 下限50万円</p> <p>③ソフト上限1,000万円 下限300万円 ハード上限600万円 ※ 4戸以上集合住宅特例 ソフト上限1,300万円 ハード上限600万円</p>	<p>補助率</p> <p>①ソフト事業 1年目 9/10 2年目 8/10 3年目 7/10</p> <p>②10/10</p> <p>③ソフト事業 ①に同じ ハード事業 1/2 市町村はいずれも 1/2</p>
<p>【特定タイプ】</p> <p>県外避難者に対する帰郷支援に資する事業 対象:NPO等, 任意団体</p>	<p>上限1,000千円</p>	<p>10/10</p>

○平成28年度の採択状況

61件 299,996千円

○主な採択分野

まちづくり(計画・コミュニティ形成), 産業振興(商工系・6次産業化・観光振興・起業・就労支援, 子ども・女性支援, 仮設等見守り支援, 災害公営住宅等の支援, 情報発信など

主な成功事例 ～宮城県南三陸町～

南三陸わらすこ探検隊

～町内児童に自然と文化の体験学習を提供、地域連携復活の機会にも～

[実施団体 : 一般社団法人 南三陸町復興推進ネットワーク]

○復興支援の概要

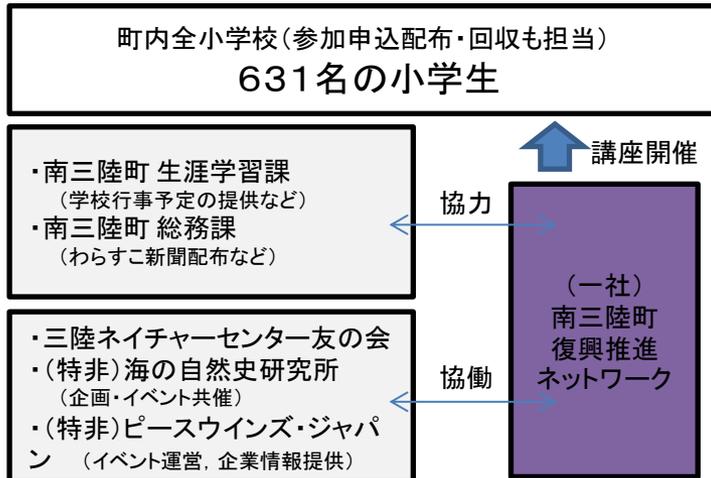
●背景

- ・南三陸町では震災により建物の6割が被災し、今なお多くの住民は仮設住宅で生活。
- ・小学校の登下校では、歩行制限によりスクールバスを使用。
- ・町の運動場にも仮設住宅が建ち、放課後の交遊の時間も行動も制限されている。

●取組

- ・町の小学生631名を対象に、様々な知識・経験を有する講師を招いて、体験学習講座を開催。
- ・震災により減少した地域資源の学習機会を補完し、子どもの豊かな心を育むことを目指す。
- ・ボランティアとして参加する町民や中・高生には、地域住民の繋がりを取り戻すきっかけとなることも期待。
- ・町内の有識者による地域の仕事・歴史・文化などを学ぶ定期講座に加え、町外の企業や専門家による特別講座も行っている。

2016. 7. 24入谷(いりや)探検隊～入谷の自然を体感しよう～



主な成功事例 ～宮城県気仙沼市～

気仙沼ゲストハウス“架け橋”

～被災地, 気仙沼」から「第二のふるさと, 気仙沼」へ～

[実施団体： 特定非営利活動法人 Cloud JAPAN

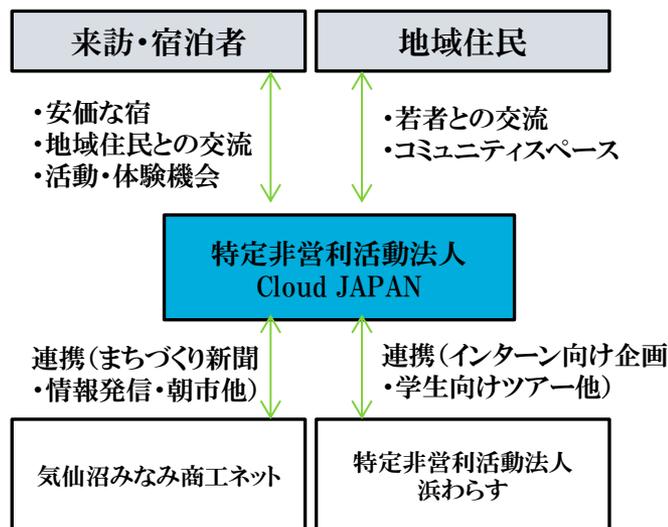
○復興支援の概要

●背景

・気仙沼市では、震災後にボランティアの滞在施設が不足していたため、空き家を借りて受入を行ってきた。しかし、徐々に来訪者は減少し、住民からは「街に活気がなくなった」「お客さんが減った」という声が聞かれるようになった。

●取組

- ・空き家を改修した新たなゲストハウスを本格的に事業化。
- ・ボランティア活動・体験学習の機会を用意し、若者が気仙沼を訪れたいくなる「きっかけ」づくり。



2016. 11. 28 “架け橋” 完成お披露目会
「参加者全員で最後の仕上げ」



2016. 11. 29リノベーション
ボランティアと住民の懇親会



みやぎ地域復興支援事業の成果と課題

これまでの成果

- 自らが地域づくりの先頭に立ち、独自財源を確保している団体
(WATALIS, ISHINOMAKI2.0, はまのね, コミュニティハウスうみねこ等)
- 時間をかけて住民に伴走し、住民主体の気運を高めた団体
(e-front, JVC, キャンナス, あすと長町コミュニティ構築を考える会等)

見えてきた課題

- 多額の人件費負担 ⇒ 事業収益を上げなければ規模縮小。
- 住民が立ち上げた新規団体：脆弱な財政基盤，事務能力。
- 行政等の補助金に依存しがちな団体運営。